

六月十五日

昨夜、「室内」の眼ざわりデザイン原稿書く。この連載を書くのは楽しみの一つなのだが、毎回毎度、素材を決めるのに四苦八苦している。編集担当の長井美暁には悪いけれど毎日にならなければ書けないのは怠けているばかりではない。無数にあり過ぎる素材のセレクションの吟味に手間取っているのだ。

「室内」「スタジオヴォイス」に書いた隅田川のホームレスハウスの反響が大きくて、図面を送れのメールやら手紙が舞い込んでいる。このホームページに図面は掲載するので、今のところはそれでお許しいただこうと考えているので悪しからず。

世田谷村の屋上にデザインされた土を載せた。途端に屋上に取付けた大きなトヨから雨水が一切流れ落ちなくなった。トヨにつけた穴が土でふさがれたからだ。当然そのことは予測していたから、穴にはネットを貼って土の流出対策とした。が、しかし雨が降っても水が流れ落ちてこない。丸まる一日の雨降りにもピクリとも反応しない。このママ水が屋上に留まり続けたらその重量は馬鹿にならない。もう一度、屋上載荷の土の重量計算をやり直しさせた。二十九トンまでOKと言ってくれた構造設計の梅沢良三さんにも再確認した。

二日目の夕方、ようやくトヨから雨水が流れ落ち始めた。色々デザインした土に雨水が浸透し、それが一杯になって水をパイパスさせるのに四十時間以上かかったのだ。土は面白いと思った。

これから、野菜を育てるわけだが、その重量計算はどうすればよいのか。何故、野菜は育つのか、どのようにエネルギー保存則が野菜内部で働いているのか、知りたい事が又、一つ増えた。雨のなか屋上に上ってみたら、計算通り、トヨの穴から水がチヨロチヨロと湧き出していた。しかし、湧き出していない穴もあるようだから、土中ですでに水の道が出来始めているのかも知れぬ。大地のミニチュア現象が屋上に出現しているらしい。掘り返して水の流れを確認したいところだが止めておこう。野菜の育成の大小でそれが解るかも知れない。